

II. イギリスの犯罪状勢

1. 全体的傾向

イギリスの犯罪は、980年代後半から90年代前半に掛けての急増傾向を押さえ込み、1997年現在は円屋根ドーム状の曲線を描きつつ減少傾向に在る（図2-1）。

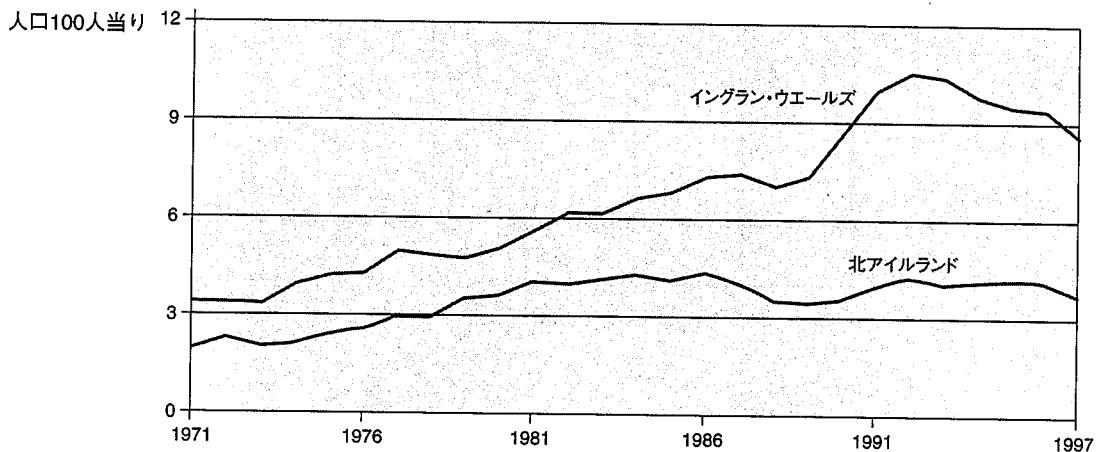
しかし、2000年1月12日に出されたHMOの速報版の統計では、1999年中の犯罪認知件数は前年に比較し2.2%、115,000件の増加となった。

議会開催に当たっては、特に女王からのコメントがなされた（参考資料1参照）。イギリスにおいては、犯罪問題の解決は、まさに政治問題に他ならない。

HMOの分析では、今後、犯罪は増加傾向に転じると見られている。理由は、消費物資の増大、経済的ブーム、犯罪者の中心年齢人口を占める16-24才の男性人口が増加することである（The Times, 2000年1月19日）。

こうした状況に対し、犯罪への取り組みは政府の最優先課題であり、犯罪防止は「より良い社会」（Better society）を創り上げる計画の中心部をなすと位置付けられている（Jack Straw内務大臣。The Independents, 11.07.1999）。

図2-1 イギリスにおける主要刑法犯の動向



2. 罪種別傾向

盗犯の減少がイギリスの犯罪減少傾向に大きく寄与している（表2-1）。

しかし、その一方で人々へ強い不安感を与える対人暴力や強盗、そして麻薬取引が確実に増加している。

2000年1月12日に出されたHMOの速報版の統計では、1999年中の暴力犯罪（Violence against the person）が前年比全体で6%、強盗犯罪が19%、性的犯罪が2%の増加となった。しかし、その一方で、家屋等侵入犯罪（Burglary）、薬物犯罪、自動車関連盗犯は僅かであるが減少している。

最終的にHMOは、今後、イギリスでは強盗と盗犯の急上昇、そして暴力と街頭犯罪（Street crime）が一層増加すると予測する。この傾向は、先進諸国の中でもトップクラスの犯罪傾向となるものと見られる（The Independents, 15.08.1999）。それにともない犯罪抑止が、総選挙に向けての重大な争点として浮上してきている（同上）。

表2-1 主要犯罪別警察認知動向（単位1000件）

	イングランド及びウェールズ			スコットランド			北アイルランド		
	1981	1991	1997	1981	1991	1997	1981	1991	1997
主 要 犯 罪									
窃盗及び盗品取り扱い	1,603	2,761	2,165	201	284	188	25	32	30
家屋等侵入犯罪	718	1,219	1,015	96	116	55	20	17	14
対人暴力	100	190	251	8	16	15	3	4	5
詐欺及び偽造	107	175	134	21	26	21	3	5	4
強盗	20	45	63	4	6	4	3	2	2
性的犯罪	19	29	33	2	3	4		1	1
（内強姦）	1	4	7		1	1			
麻薬取引		11	23	2	3	8			
全警察認知件数	2,964	5,276	4,598	408	573	421	62	64	62

出典：Social Trends 29, 1999 edition

3. 個別的特徴（多発する都市犯罪）

最近の、都市部での犯罪多発が顕著となっている。

家屋等侵入犯罪に関していえば、大きく都市（Town）と田舎（Country）に分けて、その犯罪被害者の発生率は8.8%対3.9%の違のあることが報告されている（Cabinet Office Report 'Sharing The Nation's Prosperity' 02,2000）。

また警察管轄地域（Police Division）別に集計された発生率で見ると、家屋等侵入犯罪の発生率の高いのがバーミンガム、リーズなどの大都市部の地域であることが明かとなった（表2-2）。また、性的犯罪そして暴力犯罪の発生においても、その殆ど大部分が大都市を中心とした都市部で高くなっている。

例えば、ロンドンのビショップゲート（Bishopsgate）は、性的犯罪そして暴力犯罪のいずれにおいても、英国で最も発生率の高い危険なエリアとなっている。ビショップゲートは、ロンドン中心部の金融街である the City に隣接し、「Liverpool Street (Station Terminal)」のある駅前歓楽街から成っている。Liverpool Street (Station Terminal)は、従来から、ロンドン暗黒街を代表するエリアと見られており、拳銃の売買、飲酒そして麻薬絡みの犯罪（high crime rate on drink and drug）が多発するイギリス最大の問題地域であると見られている（The Times, 19.01.2000, 写真2-1）。

Liverpool Street (Station Terminal)だけではなく、大都市部での飲酒そして薬物絡みの暴力犯罪あるいは路上強盗などの悪質犯罪をいかに防止するかが、現在のイギリス警察の最大の課題である。

一方、大都市に隣接あるいは近接する郊外都市は、都市部であっても、比較的安全な地域となっている。

表2-2の「最も安全な10地域」中の4地域を占めている「ハートフォードシャー（Hertfordshire=略してHerts）」は、大ロンドンに隣接する通勤型の郊外エリアを形成している。

例えば、ウエルウィンガーデンシティ及びハットフィールド（Welwyn / Hatfield, Herts）の2市は、両方合わせて総人口10万程である。労働人口の8割はロンドン市への通勤人口となっている。ここでは、人口1000人当たり年間1.9件の犯罪発生でしかない。田園都市においては、都市部でも犯罪からの安全性が高くなっている（写真2-2）。

表 2 - 2 1999年犯罪遭遇危険・安全10地域

家屋等侵入犯罪地域 Worst 10 Places			性的犯罪地域 Hot 10 Spots		
人口1000人当たりBurglaries▼			人口1000人当たりSex Crime▼		
1	Birmingham City/Digbeth	36.9	1	Bishopsgate, City of London	10.7
2	Millgarh, Leeds	36.1	2	Newcastle central	5.9
3	North Manchester	30.0	3	Birmingham city center	4.4
4	Odsal, Bradford	28.9	4	Snowhill, city of London	2.2
5	North East Lincolnshire	28.9	5	Westminster, London	2.1
6	Kingston upon Hull	28.6	6	Millgarth, Leeds	1.6
7	South Manchester	28.4	7	Bradford, Central	1.3
8	Middlesborough	28.4	8	Central Leicestershire	1.3
9	Bradford City	27.4	9	City/Kirkdale, Merseyside	1.3
10	Wavertree/Riverside, Liverpool	27.4	10	Southwark, London	1.2

暴力犯罪地域 Violent 10 Places			最も安全地域 Peaceful 10 Place		
人口1000人当たりViolent Crime▼			人口1000人当たりSex Crime▼		
1	Bishopsgate, City of London	348.8	1	Eastern, Dorset	1.6
2	Newcastle central	126.8	2	Dacorum, Herts	1.7
3	Digbeth, Birmingham City Centre	90.1	3	ST Albans, Herts	1.7
4	City and Kirkdale, Merseyside	31.6	4	Sheffield South	1.7
5	Snowhill, city of London	28.6	5	Southern Oxfordshire	1.9
6	Westminster, London	26.1	6	Sheffield North	1.9
7	North Manchester	19.5	7	East Hertfordshire	1.9
8	Hackney	18.7	8	Welwyn/Hartford, Herts	1.9
9	Southwark	18.0	9	Congleton and Vale Royal	2.0
10	Millgarth, West Yorkshire	17.4	10	Stockton	2.0

出典：Home Office，2000年1月。

イングランドとウェールズの警察署管轄地域単位。

写真 2 - 1

性的及び暴力犯罪に遭遇する危険性の最も高いBishopsgate地域



写真 2 - 2

犯罪から極めて安全なWelwyn Garden City地域

